

不登校生徒の学習支援について

【小平市立 A 中学校の取組】

不登校生徒の状況

対象生徒は1年次からクラスに馴染めず、登校しぶりをしてきた。2年次はクラス替えによりクラスには馴染めたものの、学習の遅れに不安があり、登校をしぶることが多かった。

具体的な取組

電話連絡を基本としつつ、保護者・生徒・担任との三者、あるいは二者で面談及び家庭訪問を適宜行った。また、家庭連絡を密にし、家庭との絆づくりと信頼関係を築くことを意識した。

生徒と保護者、あるいは生徒がスクールカウンセラーと面接し、助言や指導、カウンセリングによる心のケアを行った。面談内容については当日中に担任にフィードバックを行い、また、校内委員会でも情報を共有し、全職員に周知、校内での協力体制を構築した。

昨年度の半ばから校内にある学習支援教室に通うようになった。静かな環境で個別の学習支援を受け、今年度も継続的に学習している。



各教科担当や学年職員が生徒に意識的に声をかけ、関わりをもつようにした。また、校内委員会での情報共有を受け、他学年の職員や養護教諭も気にかけるようにした。

あゆみ教室（教育支援センター）にもつなぎ、学習の遅れへの不安に対応した。

成果

進路について明確な目標をもつようになったことも大きい。多くの大人に見守られている安心感と絆づくり、そして学習支援を受けてきたことで学習への不安が軽減し、自分に自信がもてるようになり、今年度2学期からは毎日教室に登校できている。現在も学習支援教室に通っており、生き生きと学習している姿が見られる。

課題

基礎的な学力不足は今も課題であり、今後もサポートの必要がある。また、進学後、新たな環境での人間関係づくりも心配される。

校内別室の効果的な利用について

【小平市立 B 中学校の取組】

不登校生徒の状況

対象生徒は、小学6年生の頃から学校生活に漠然とした不安を抱き不登校だった。中学校入学後、校内別室を利用し、3、4校時に自習し、給食を食べて下校するところから始めたが、徐々に在籍学級でも授業を受けられるようになってきている。

具体的な取組

●校内別室

不登校生徒の在籍学級への復帰に向けた段階的な登校手段の一つとするとともに、一日の全てを在籍学級で生活することが困難な生徒がひと休みできる場所として、別室を設置している。3・4校時（自習）と給食を自分のペースに合わせて利用することができる。加配教員を担任として置き、出席や活動状況等を記録し、相談活動も行う。



●オンライン教室

毎日11時から、校内別室の担任が、オンラインで学活を行っている。登校している生徒とともに、自宅にいる生徒も参加している。一人一台学習者用端末を活用し、「Google Meet」で、顔を見ながら健康観察や連絡、会話（雑談など）をしている。

●「hyper-QU」研修

hyper-QU（より良い学校生活と友達づくりアンケート）を年間2回実施し、結果の分析及び活用方法について、外部講師による校内研修を実施している。不登校リスクの高い生徒を把握し面談を実施するとともに、学級の課題解決につなげ、不登校の未然防止を図っている。



●ICT 学習教材「eboard」

校内別室での自習、及び、不登校生徒の家庭学習に「eboard」を活用し、映像授業とデジタルドリルで学習する。学習履歴が残り、学級担任や教科担当が学習状況を確認することができる。

成果

- 不登校生徒の約半数が校内別室を利用し、登校への最初のステップとして定着しており、在籍学級へ復帰した生徒もいる。登校できなくても、オンラインで教員とつながることができた。
- 不登校リスクの高い生徒に、早期に対応できた。

課題

- ◆ 校内別室から在籍学級への復帰に向けて、スモールステップの目標を設定し、徐々に実践可能なことを増やしていく。